

「湯の花の里」 老朽化した部分の修繕は

佐藤 信男 議員



毎年優先順位の高い部分から修繕の実施
保険福祉部長

問 利用者を拡大するなど検討したか。

答 自主事業では、ロコモ予防教室、脳トレ体操を実施、また、新規利用者へのサークル活動を積極的に紹介している。

問 「湯の花の里」の老朽化した部分について、今後、修繕の予定はあるのか。

答 毎年優先順位の高い部分から修繕を実施。浴槽の修繕やボイラー、エレ

ベーターなどの更新が必要となる。

問 利用者の中には高齢者が多いが、各種の相談などの体制は。

答 相談は、その都度対応している。特に看護師が常駐しており、いつでも健康相談に応じられる体制となっている。また、利用者に変化があれば声をかけ、必要であればすぐに地域包括支援センターへつなぐよう連携を取っ

ている。

問 レクリエーションの推進など、具体的な活動は。

答 利用者は、卓球、カラオケ、囲碁、将棋、マジック、ビリヤードなどを楽しんで

問 骨粗しょう症への第3次健康日本21計画の具体的な対応内容は。

答 女性の健康の中で骨粗しょう症検診の受診率が新たな目標に設定される。

問 今後、骨粗しょう症検診受診率向上のための方策の検討は。

答 現在も検診対象者への受診方法を周知する冊子や受診券等を個人通知するほか、広報「あいさし」や市のホームページで周知し、受診勧奨を行っている。

今後も様々な機会を捉え、骨粗しょう症と骨密度について、多くの方に理解してもらい、受診率向上に向けた対応を工夫する。



▲佐屋老人福祉センター（湯の花の里）

問 骨粗しょう症検診の受診率は、乳がん、子宮がんと比較すると受診率が低い。その理由は。

答 各種がん検診は、早期発見、早期治療が予後を大きく左右するので、受診率向上のため様々な形で検診の受診勧奨を行っている。

一方、骨粗しょう症は、がんより異なり急速な症状の変化がないので、検診の優先度と認知度が低いと考える。

骨粗しょう症検診の現状と今後は